

平成 28 (2016) 年 11 月 29 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

カラカス日本人学校があったから 私たちは時と空間を超えて、会うことができたのです！ 20年前に在籍された宮永久美子先生から、ベネズエラのことを書いた本が届きました！

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その139)
カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 34



本には次のような手紙が入っていました。「昨年、東京での40周年記念同窓会に間に合わせようと、1994～1997年に在籍した滞在記を小冊子にすることができました。当時のお世話係の林君、佐野君に相談しまして、日本人学校の職員室に飾っていただけたらと、送ります。どうぞ、一読していただけたら幸いです。」職員室ではなく、図書室に入れたいと思います。ぜひ、皆様読んでください。(写真：当時の学習発表会、和太鼓発表のようす)

■ここはヴェネズエラなんだ！… (宮永久美子) ■ 1996年「学習発表会」カラカス日



本人学校では、学習発表会という学芸会のような行事があります。もちろん、親子で楽しむことの少ない狭い社会ですから、その日は家族総出で学校に集まります。私の学年4年生は、「ヴェネズエラ大冒険」というテーマで社会の時間に調べたベネズエラ各地の特徴を大きな絵地図を作り、子ども達が創作した簡単な寸劇で各地の様子を紹介しました。カリブ海に面した北部地方、ここには首都カラカスがあります。マルガリタ、ロス・ロケス諸島の海岸地方。ロス・アンデス山脈、マライボ油田のある西部地方。オリノコ川からギアナ高地にあるアンヘルの滝、グラン・サバナの東部地方。そして、熱帯雨林、動植物の宝庫アマゾンズの南部地方。子ども達の何人かは、これらの土地を旅行しており、彼らなりの情報や写真集でまとめました。おかげですいぶんベネズエラに詳しくなりました。様々な顔を持つベネズエラの自然。喜ぶべきか悲しむべきか、まだまだ観光地化されていないので、日本人観光客にはなじみはないでしょう。日本の観光客にも、観光地化されていない自然の良さを見てもらいたいものです。1996年「ローマ法王がやってきた」9、10、11日とローマ法王が南米諸国を訪問し、このベネズエラにも訪れました。ここはカトリックの国なんだと、ローマ法王訪問で改めて実感させられました。この2月はカラカスはもちろん、各地方すべてが「パパ」を歓迎するためのイベントでいっぱいでした。テレビはこの3日間は生中継、学校もパレードの道路封鎖を恐れて休校。もちろん道路は通行禁止。日本での皇太子殿下の結婚式を想像してください。テレビや街角からは宗教歌の「キリエ」「ハレルヤ」が毎日聞こえてきます。大学時代にこれらの曲を歌ったり、聞いたりする機会がありました。改めてこれらの曲は、まさしくキリスト教の宗教歌だったのだと、その重みを感じて聞くことができました。「パパ」に会うために、遠く田舎から出てきた人もたくさんいたそうです。我々日本人は、テレビで「パパ」を見た人がほとんどのようでした。私も、毎日テレビで一部始終を見ることができました。「パパ」の表情には深い疲労が表れていましたが、この地の熱狂的な歓迎が彼を支えていたように思えました。

1997年「ベネズエラの思い出」(この本で紹介された卒業生Sさんの寄稿文) 私がベネズエラに滞在していたのは5歳から10歳までの5年間でした。その5年は、今の私そのものを作り上げた5年間だったと、今になって強く思います。私は「人」がとても好きです。人の笑顔を見るのが大好きです。それは、カラカスでたくさんの人と関わり、たくさんの人の優しさに触れてきたからこそだと思います。カラカスでは、そこで出会った人たちみんなが家族のようなものでした。思い返すと「いつもみんな一緒」でした。海外では当然日本人は少数派です。さらにベネズエラという国の認知度は、その当時はとても低かったでしょう。だからこそ、お互いに助け合うことが当たり前で毎日でした。だからといって、ベネズエラ人が冷たかったかということではありません。ベネズエラ人もとても温かく、困っていると助けてくれる優しい人たちばかりでした。本当に環境に恵まれていました。特に、カラカス日本人学校では、学年関係なく学校にいるみんなが家族のような存在でした。山の中にある、小中全校合わせても60人くらいの日本人学校。何をしてもいつもみんな一緒でした。行き帰りの2時間の通学、運動会、マラソン大会、水泳教室、アビラ山への登山、皆既日食の観測会、学習発表会、社会見学といった様々な学校行事。近くに「なまけもの」が生息し、時には蛇が出没したり、サソリが出没したり、危険に直面することもしばしば。サソリ対策で、朝、下駄箱でみんな上で履きをパンパンたたいたりしたのが懐かしいです。また、全校生徒で演奏した「カラカス太鼓」は本当に素晴らしい体験になりました。学年でパート分担し、猛練習。パート毎に練習し、全体で練習し、一つの曲を作り上げる。みんなの思いが一つになって演奏する「アビラのひびき」「海をこえて～Las Olas」本当にたくさんの思い出が詰まった曲になりました。またいつか、みんなで演奏できたらと思います。(中略)ベネズエラの5年間はかけがえのない5年間です。日本では経験できないことばかりで、今の自分の価値観も、感性も、物事の考え方もベネズエラでの5年間を経てこそ身についたものです。たくさんの優しさ、たくさんの笑顔に触れてきたからこそ、今の自分があります。今は、ほとんどスペイン語も話せなくなりましたが、またいつかその当時の仲間と一緒にベネズエラに行くことが、今の私の小さな夢です。ベネズエラで出会ったみんな、ありがとう！ また会いましょう！ 本の紹介おわり

